受付番号　第 *2023039* 号
承認日：2024 年 3 月 13 日

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

大腿骨近位部骨折患者の家族に対する FRAX を用いた骨粗鬆症スクリーニング

2. 研究責任者(当院)

所属：リハビリテーション室
氏名：加藤木　丈英

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし
代表名：なし

3. 分担研究者

所属：A3 病棟
氏名：藤田　加代子

所属：整形外科
氏名：小谷　俊明、岸田　俊二、飯島　靖

所属：B3 病棟
氏名：島津　美穂子

4. 研究対象者

2024 年 04 月 01 日～2026 年 03 月 31 日の間に、聖隷佐倉市民病院に大腿骨近位部骨折で入院した患者の 40 歳以上 90 歳未満の家族（娘、嫁など）とする。

5. 研究の必要性

近年、腰椎骨粗鬆症の有病者数は 1,590 万人(男性 410 万人、女性 1,180 万人)と増加傾向にある。加えて、骨粗鬆症が原因で発生する大腿骨近位部骨折の発生者数は 193,400 人(男性 44,100 人、女性 149,300 人)であり、女性に多く見られる同骨折は、人口の高齢化が進む中でさらに増加すると推測されている。骨折後には、手術を受けたとしても生活機能は大幅に低下し、多くの場合、介護が必要になる。これにより、患者だけではなく、介護を担う家族にも社会的、経済的な負担が大きくなる。

骨粗鬆症に対する早期発見と治療は効果的であるに関わらず、現状では適切な骨粗鬆症の診断が行われていないことが多い。そのため、骨折を引き起こす前に骨粗鬆症患者を早期に発見し、将来の骨折を防ぐための治療介入が重要である。

FRAX は、世界保健機構(WHO)が作成したプログラムで、骨粗鬆症による骨折が今後 10 年間に発生する確率を計算するツールである。骨粗鬆症による骨折は、家族歴も危険因子の一つとされ、FRAX では自身の骨折歴に加え、家族の骨折歴がある場合には骨折リスクが上昇するというアルゴリズムが組み込まれている。われわれは、大腿骨近位部骨折で入院した家族（特に娘）を対象に FRAX を用いて骨粗鬆症リスクがある患者をスクリーニングし、骨折リスクが高い場合に治療へと繋げるシステムの構築を検討している。この取り組みは、骨粗鬆症骨折患者の家族に対する啓蒙活動として、将来の骨粗鬆症による骨折減少に向けて極めて重要な先進的な活動で

ある。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

研究等によって生ずる個人の影響は、研究の説明と FRAX 入力終了までに約 10 分を要し、その間、対象者は拘束される。しかしながら、患者の手術待機中に実施するため、対象者への負担は少ないと予想される。

本研究で予測される医学上の貢献は、骨粗鬆症のスクリーニングを受けることで、骨粗鬆症を罹患している可能性が評価される点である。FRAX により将来 10 年間の骨折発生確率（主要な骨粗鬆症性骨折、大腿骨近位部骨折）が高いと算出された場合、参加者を当院の健診センターや近隣の連携診療所に紹介し精査を受けることができる。その結果に基づき、早期治療が導入される可能性がある。

これまでにこのようなシステムは報告されていないが、患者の骨折や骨折に伴う負担を経験している家族は、骨粗鬆症治療への関心が高いと考えられる。また、家族歴があるリスクの高い人に対して効果的にスクリーニングを行う本研究の意義は大きい。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151（代表）
担当者氏名：加藤木　丈英
対 応 時 間：8:30－17:00